

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 18 日現在

機関番号：12101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K02441

研究課題名(和文) 19世紀後半から世紀転換期の文学表象における女性労働とネットワーク形成

研究課題名(英文) The Literary Representation of Women's Labour and the Formation of Their Network in the Late Nineteenth and Early Twentieth Centuries

研究代表者

市川 千恵子 (Ichikawa, Chieko)

茨城大学・人文社会科学部・教授

研究者番号：10372822

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：「墮ちた女」の感傷的な表象や、慈善活動の救いの対象としての受動的な存在としてではなく、自律した生を模索する下層階級女性の姿を、マーガレット・ハークネス(1854-1923)の著作を中心に考察した。ハークネスの語りには、下層階級女性を物語の声の主体としながらも、中流階級的なまなざしが介在する。その一方で、労働者階級女性の経済的脆弱さ、政治的声の獲得の困難さを提示する際には中流階級の価値観に対する批判と抵抗を潜ませる。自らの権利の模索としてのストライキへの参加に、慈善活動における階級差を基盤とした女性の関係とは異なり、労働者階級女性の連帯の萌芽と、彼女たちの政治的覚醒のあり様を見出すことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来の19世紀イギリス文学研究では、その関心が中流階級女性に集中しがちであったが、本研究は下層中流階級から労働者階級女性の労働に焦点をあて、階級を超えた女性同士の関係の葛藤から脱し、労働者階級女性たちが自らの政治的声を模索する萌芽的瞬間を見出そうとした。また、本研究では正典と位置付けられる19世紀の女性作家(ブロンテ姉妹、ギヤスケルなど)の作品と、近年新たに発掘され、再評価されつつある女性作家(ハークネス、エセル・カーニー・ホールズワースなど)の著作から女性著述の系譜の新たな様相を追究することも試みた。

研究成果の概要(英文)：This project investigates working-class women in fiction and non-fiction by primarily examining Margaret Harkness's novels and reportage. Although Harkness's objective approaches to women's struggle with predicaments attempt to redress fundamental problems of agency and social structure, her views and narrative style are still within the middle-class framework. Nonetheless, she reveals the facts about the physical and financial exploitation of female bodies as commodities in an urban consumption culture in which working-class women experience vulnerability, and poverty along with conflicts of obtaining their political voice. In her radicalism and realism, Harkness creates labouring women, though they are marginalised figures, who challenge the myth of the sensual and erotic working-class woman. They also envision their independence from the patronisation of the middle-class philanthropic campaigners and reject their ideology, in order to seek a new way to their solidarity.

研究分野：イギリス文学

キーワード：女性労働 ネットワーク 19世紀 マーガレット・ハークネス 貧困

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

中流階級の書き手が主流である 19 世紀の小説では、労働者階級女性は性的暴力の犠牲者として、中流階級のヒロインの救済の対象であり、その結果ヒロインの美德を証明する脇役として周縁化される傾向にある。中流階級女性による慈善活動においても、労働者階級女性は施しの対象であり、中流階級の価値観の押しつけや女性間のヒエラルキーが、階級を超えた女性たちの連帯の展開を困難にさせた。とりわけ過去の研究課題においては、中流階級女性による階級を超えたネットワーク形成の企画が、労働者階級男性に対してはある程度の成功を遂げたことに比べ、女性同士の協力体制の構築には至らなかったことが明らかになった。19 世紀後半から世紀転換期にかけての女性と労働の新たな側面を追究する必要性から、女性労働者を主要な分析の対象として、中流階級的価値観や道徳的支配に絡めとられることに抵抗を示す「働く女」の表象を文学作品とルポルタージュなどの散文から読み解き、救済や施しの対象から脱して、自律的な生を模索する新しい女性労働者像を検証することに至った。

## 2. 研究の目的

本研究はすでに多角的に照射されてきた 19 世紀後半から世紀末の中流階級女性ではなく、労働者階級女性に視点を移すことで、先行研究では可視化されなかった女性たちの労働とその生に迫ることを目的とした。都市における女性の労働とネットワークの形成の様相を考察し、この時代の「働く女」としての経済的葛藤と政治的覚醒を経験し、自らの権利の主張の術を模索する過程を検証し、さらには新たな都市文化の担い手として、存在感を増していく労働者階級女性像を探ることを目指した。

## 3. 研究の方法

19 世紀後半から 20 世紀初頭にかけて書かれた文学作品の他に、都市労働のルポルタージュ、同時代の新聞記事、女性労働組合の年報、女性参政権運動の記録、女性労働者の雑誌の読みと分析を行い、中流階級による女性労働者の表象とネットワーク構築の実相を調査した。分析の対象としたテキストは、リプリント版の他、British Library Newspaper Archive のデータベースによる同時代の新聞記事・論説・書評だが、国内において入手できない著作物や資料に関しては、British Library、Working Class Movement Library (以下、WCML と略する)、Manchester Central Library、Bodleian Library にて文献調査を行った。特に WCML では、図書館員の協力のおかげで、労働者階級女性作家の Ethel Carnie Holdsworth を発掘することができた。また、研究に過程において得られた成果は、国内外の学会において報告を心がけ、海外の研究者との連携も図ることができた。

## 4. 研究成果

### (1) スラム小説における労働と貧困

まず 19 世紀中葉のディケンズやギaskellの小説に見出される新救貧法批判と、W. T. M. Torrens の *Lancashire's Lesson* (1864) における貧困対策としての公的雇用創出をめぐる政治的議論から、世紀末のハークネスの作品までをとりあげて、都市の貧民地区と最下層の人々を描く小説におけるチャリティ、広義な教育、そして労働の様相を検証した。そのうえで、中流階級的価値観による利他主義的干渉と労働者階級の人々の意識の変容、それに付随する階級間の摩擦、さ

らに文学的想像力が生み出す感傷性の仕組みを読み解いた。利他主義はヴィクトリア朝の中流階級の人々にとり、個人の道德規範のみならず、精神的成熟をも示す尺度であり、産業小説における個人的親交を通じた慈善から、組織的チャリティ活動による集団の救済にいたるまで、「持てる者」による「持たざる者」への救済とその眼差しには、文化的支配と労働統制という政治性が介在するのである。

次にハークネスのスラム・フィクションに描かれる労働者の政治的意識の目覚めに着目し、労働運動を先導する立場の社会主義者の上層階級と、そうした思想の受容者としての労働者の緊張関係を検証した。ハークネスの作品では、その関係は父と子という伝統的な枠組みから提示されるのだが、階級を超えた女性たちの関係性が希薄であり、かつ女性の声が断片的に描かれる傾向が見出せる。

## (2) ストライキにおける演劇的效果

マンチェスターを中心にストライキという事象を軸に検証した結果、女性労働者の表象の変遷が明確になりつつある。ギaskellの産業小説の女性労働者は沈黙するが、ハークネスの *A Manchester Shirtmaker* (1890)における女性工場労働者は、自らの政治的声を挙げようとする。女性がストライキの参加者となると、イングランド北部の抵抗の伝統が女性労働者にも継承され、時代の規範的女性像への抵抗とも読み取れるのである。また、ハークネスの *George Eastmont, A Wanderer* (1905) は1889年のロンドン港湾ストライキの史実に基づくが、個人的物語と国家の欲望を交渉させた作品である。とりわけ労働争議における宗教家の役割の強大さから社会の家父長的構造が強調されており、ハークネスの語りには19世紀中葉の産業小説から継承された中流階級の視点が潜在することは否めない。だが、家父長的な枠組みから社会の精神的連帯を希求しながらも、19世紀末の都市の貧困の苛酷な現実を突きつけ、チャリティへの不信や、社会主義への傾倒と失望を示唆するハークネスが描く理想と現実は、まさしく混迷する時代を映し出す。同時に、周縁的な女性労働者をめぐる描写には、新たな声の模索が示される。彼女たちには与えられていないプラットフォームに代わるものとして、演劇的效果を生むストライキの女性の群れは、抵抗の言葉をその身体に刻むのである。

## (3) ネットワーク形成の様相

WCMLの資料調査では、女性労働に関する専門雑誌 *The Women Worker* を始めとした資料を閲覧し、北部工業都市の社会主義運動における階級を超えた女性たちの連帯の一端と、労働者階級女性の著作活動のネットワーク形成の一端を確認することができた。特に工場労働を経験した労働者階級女性作家を発掘できたことは収穫であった。さらに、ロンドンを基盤とする女性労働組合運動に関しては、British Libraryにおいて1891年から1919年まで発行された女性労働組合(the Women Trade Union League)の年報、さらにAnnie Besantを始めとした女性労働組合運動の推進者が執筆したパンフレットなどを閲覧した。女性労働組合を支援する組織の長は貴族の女性、また組織委員会のメンバーは男性が多数を占めており、労働者女性たちの自発性を養うことを意識した表現が垣間見られたが、庇護の対象としてのまなざしが根底に存在している。

以上の国内の労働をめぐる検証の成果としては、2019年7月にロンドンで開催されたThe Literary London Societyから招待を受けた際に、年次大会の中心テーマとなる共同体という概念と本研究課題の女性労働表象とネットワーク形成を連携させ、ギaskellが19世紀中葉の産業小説のなかで描く家父長的共同体とハークネスのポスト産業小説における19世紀末の都市の理想と現実の乖離を考察し、両作家による女性身体と声の提示の様相を議論した。

さらに、ハークネスの女性労働者のルポルタージュが明示する労働者階級女性の経済・身体的脆弱さの検証の結果、彼女のオーストラリアにおける移民労働調査のためのジャーナリスト活動の分析も、創作と政治活動を読み解くうえで重要であることがわかり、オーストラリアの移民企画をめぐる諸問題や労働争議に関する彼女の新聞記事及び論説を読む作業を行った。この分析を *George Eastmont: A Wanderer* の主人公のオーストラリア体験のみならず、ディケンズ、ハーディ、ギッシングらの 19 世紀のリアリズム小説におけるオーストラリアからの帰国者表象の検証へと結びつけ、論考を深めることが今後の課題である。

#### 4) 女性作家の系譜の検証—正典から再発掘・再評価作品へ

本研究の遂行の過程において、近年再発掘され、再評価を受け始めた 19 世紀末から 20 世紀初頭の女性作家には、先達としての 19 世紀中葉の女性作家からの影響が見出され、女性のプロフェッショナルなネットワークの注目すべき一側面と捉えた。ハークネスとホールズワースというマイナーな作家の著作をギaskellやプロンテ姉妹による正典的作品とともに検証することにより、女性作家の系譜を広く検証することにつながった。また、ハークネスの作品では周縁的な存在でありながらも、自らの政治的声を挙げようとする女性労働者が描かれ、さらにホールズワースの小説では、その娘の世代にあたる労働者女性が具体的な行動に移すように、時代の規範的女性像への抵抗と刷新の様相をも迎えることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Ichikawa, Chieko	4. 巻 41.1
2. 論文標題 “ A Body Politic of Women ' s Own: Josephine Butler, Social Purity, and National Identity ”	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Victorian Review	6. 最初と最後の頁 107-123
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1353/vxr.2016.0012	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件（うち招待講演 4件/うち国際学会 6件）

1. 発表者名 市川千恵子
2. 発表標題 ラウンドテーブル「女性のプラットフォームを求めて 女性参政権獲得の歩み」
3. 学会等名 日本ヴィクトリア朝文化研究学会第18回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 市川千恵子
2. 発表標題 「ヴィクトリア朝のレディ・トラベラーが触れた日本」
3. 学会等名 土曜アカデミー・岡倉天心セミナー vol. 5「世界の “OKAKURA” 誕生 岡倉の最初の英語著作と日本趣味」（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 市川千恵子
2. 発表標題 「女性と群集」
3. 学会等名 第9回人文社会科学部市民共創教育研究センター主催・人と地域研究会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ichikawa, Chieko
2. 発表標題 “ Women ’ s Writing on Sex: Rhetoric and Gender in the Social Purity Movement ”
3. 学会等名 The 1869 Conference (University of Otago) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 市川千恵子
2. 発表標題 「傍観者から参加者へ 女性・暴動・ストライキ」シンポジウム「群衆との対峙 ヴィクトリア朝の小説における都市の風景」
3. 学会等名 日本ギヤスケル協会第29回大会（熊本大学）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ichikawa, Chieko
2. 発表標題 “ Anger and Hunger: A Body Politic of Working-Class Women in Margaret Harkness ’ s Slum Fiction ”
3. 学会等名 The Body and the Page in Victorian Culture: An International Conference (University of Victoria, Canada) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 市川千恵子
2. 発表標題 「干渉と感傷の力学 ヴィクトリア朝小説におけるチャリティと労働」
3. 学会等名 日本英文学会シンポジウム「近代イギリスのチャリティを読む」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Ichikawa, Chieko
2. 発表標題 "Dickens ' s Impact on Japanese Culture "
3. 学会等名 Global Dickens (University of Cardiff) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Ichikawa, Chieko
2. 発表標題 "Governing Desires versus Consuming Pleasures: Jane Ellice Hopkins, James Hinton and Conflicts in Sexual Politics"
3. 学会等名 BAVS: Consuming (the) Victorians (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Ichikawa, Chieko
2. 発表標題 " Socialist Purity Campaigners and Women ' s Writing on Sex "
3. 学会等名 Radical Women 1880-1914 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Ichikawa, Chieko
2. 発表標題 "The 'Frankenstein-monster' Trope: Crowds and Women in the Novels of Elizabeth Gaskell and Margaret Harkness"
3. 学会等名 The Literary London Society (University of Notre Dame) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

## 〔図書〕 計2件

1. 著者名 市川千恵子、田中 孝信、要田 圭治、原田 範行、閑田朋子、侘美真理、本田蘭子、川端康雄、武藤浩史	4. 発行年 2016年
2. 出版社 彩流社	5. 総ページ数 416 (30)
3. 書名 『セクシュアリティとヴィクトリア朝文化』	

1. 著者名 市川千恵子、惣谷美智子、岩上はる子、新野緑、皆本智美、大田美和、天野みゆき、木村晶子、市川薫、小田夕香理、木梨由利、山内理恵、江崎麻里、田村真奈美、長柄裕美、真鍋晶子、金丸千雪、川崎明子、奥村真紀、仙葉豊、	4. 発行年 2019年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 420 (17)
3. 書名 『めぐりあうテキストたち ブロンテ文学の遺産と影響』	

## 〔産業財産権〕

## 〔その他〕

-

## 6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----